

HONDA

OWNER'S MANUAL

PCX



Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。
安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」
を受取り、下記を確認してください。


- お車の正しい取り扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印


安全運転の基本として以下は重要ですので、お
守りください。


- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」
を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。こ
れらは重要ですので、しっかりお読みください。

 **危険** 指示に従わないと、死亡または
重大な傷害に至るもの

 **警告** 指示に従わないと、死亡または重
大な傷害に至る可能性があるもの

 **注意** 指示に従わないと、傷害を受け
る可能性があるもの

その他の表示

アドバイス お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙
や内容と実車が一致しない場合があります。
車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書お
よびメンテナンスノートをお渡してください。

目次

安全なライディング	P. 2
操作ガイド	P. 12
メンテナンス	P. 55
こんなときは	P. 85
インフォメーション	P. 103
スペック	P. 115
索引	P. 118

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと	P. 3
安全運転のために	P. 4
運転するときの注意	P. 5
アクセサリーと改造について	P. 9
積載について	P. 10

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法に準じて設けられた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素（CO）などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をフロアに置いてください
- 同乗者が両手でからだを固定し、両足を後席用ステップにのせているか確認してください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさげ、安全な運転を心がけてください
- 同乗者、他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください

乗車時の服装

運転者と同乗者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車で PSC、SG マークか JIS マークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください

- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者と同乗者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

グローブ

摩擦に強い皮製のもの

ブーツまたはライディングシューズ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

ジャケット・パンツ

プロテクターを備え、体の露出の少ない長袖・長ズボン

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

■ 慣らしのポイント（走行距離 500 km まで）

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキをさける
- 控えめな運転をする

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキをしない
 - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
 - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
 - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。

- 連続したブレーキ操作をしない

- ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

■ コンビブレーキ

左ブレーキレバーを操作すると、後輪ブレーキが作動すると共に前輪ブレーキが作動し、右ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。右ブレーキレバーのみ操作した場合と左ブレーキレバーのみ操作した場合では、制動力が異なるため効き具合に違いがあります。

制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

■ 雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

駐車するとき

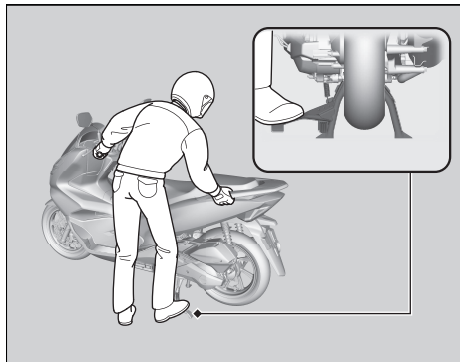
- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチを施錠して Honda SMART Key を携帯する ㊦ P. 35
必要に応じて Honda SMART Key システムを作動停止状態にする ㊦ P. 33

Ⅰ サイドスタンドまたはメインスタンドでの駐車

1. メインスイッチを○（Off）にする。
2. サイドスタンドでの駐車
サイドスタンドを下げ、車の重量がサイドスタンドにかかるまで、車をゆっくり左に傾ける。
▶ ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。

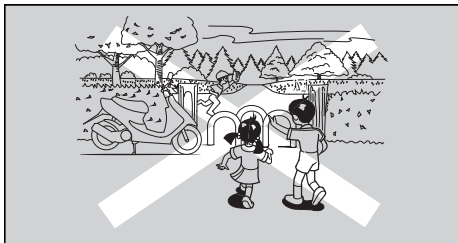
メインスタンドでの駐車

左手でハンドルをまっすぐにし、右手でグラブレールをしっかり持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立たせる。

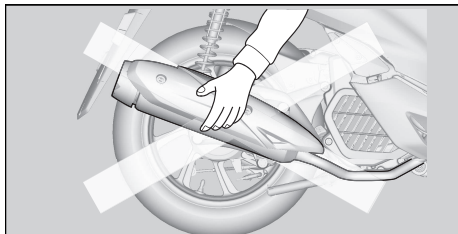


3. ハンドルバーを左いっぱいにする。
4. ハンドルロックをかけ、メインスイッチを施錠する。㊦ P. 35

- マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



⚠ 注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- ・ マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- ・ 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジンの燃料装置、触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛レギュラーガソリンを使用する
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン（長期間保管したガソリン）、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。

ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- ・ エンジンを止め、火元を遠ざける
- ・ 給油は必ず屋外で行う
- ・ こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- ・ 給油作業前に車体や給油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面から Honda 純正アクセサリーを推奨します。Honda 販売店にご相談ください。

Honda 販売店で取り付けられた Honda アクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。

車の改造は保証の適用を除外されます。

警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

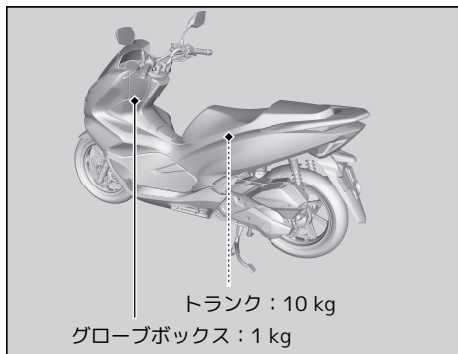
アクセサリーを装着する際は、Honda 販売店にご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

積載について

- 荷物を積むと積まないときにくらべて操縦安定性が変わるため、安全な速度で走行してください
- 荷物の積みすぎに注意し、確実に固定して安全な速度で走行してください
- ハンドル操作ができなくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあるので、グローブボックスから荷物がはみ出さないようにしてください
- ヘッドライト、ウィンカー、ストップ/テールランプ、マフラー周辺への積載はさけてください
 - ▶ 過熱によりレンズが溶けたり、荷物が損傷する場合があります。

- カバー等が破損する場合があるので、指定の場所以外に荷物を積まないでください
 - ▶ 走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- レンガや鉄片等、固くて重いものをトランクに積んだまま走行しないでください
 - ▶ 積載重量以内でもトランク底面が損傷する場合があります。
- 貴重品やこわれやすいものは積まないでください
- トランクに熱の影響を受け易い物は積まないでください

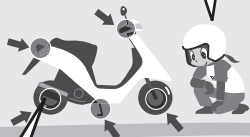
- 荷物の積載は下記重量までです
グローブボックス：1 kg
トランク：10 kg



基本操作の流れ

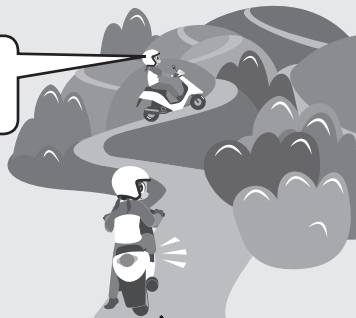
エンジン始動前 ➡P.56

運転する前に日常点検を行いましょう。
燃料残量を確認しましょう。



加速 ➡P.46

発進や加速はスロットルをゆっくり回し、急加速はさげましょう。



エンジン始動 ➡P.42

周囲の安全を確認して、エンジンをかけます。空ぶかしはさげましょう。

基本装備の使いかた

- メーター ➡P.16
- 警告灯/表示灯 ➡P.24
- スイッチ ➡P.26
- ハンドルロック ➡P.28
- Honda SMART Key システム ➡P.29
- アイドリングストップシステム ➡P.39



発進

後方の安全や周囲の状況に注意し、方向指示器で合図を出し走り出します。



減速 → P.46

STOP!

スロットルを素早く戻し、前後のブレーキの両方を使い速度を下げ、不必要な急ブレーキは避けましょう。制動灯（ストップランプ）が点灯し、後車への合図になります。

停止

早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車に注意しながら、徐々に路肩に寄ります。

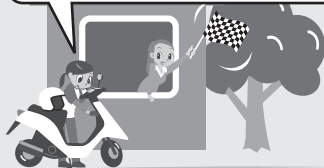
燃料補給 → P.47

ガソリンスタンド



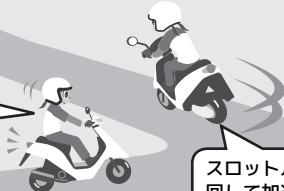
駐車 → P.6

安全な場所に駐車しましょう。サイドスタンド、メインスタンド、ハンドルロックを確認します。



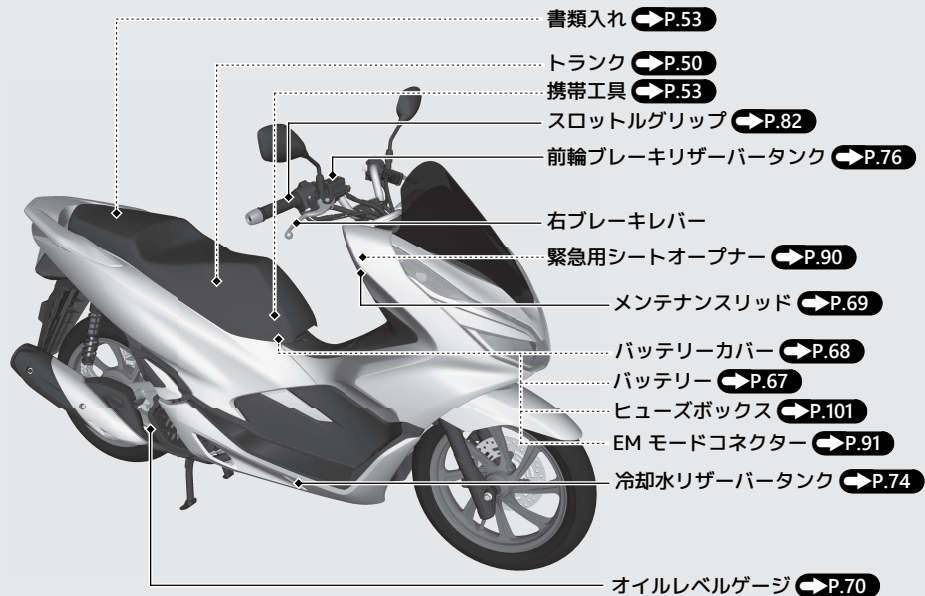
コーナリング

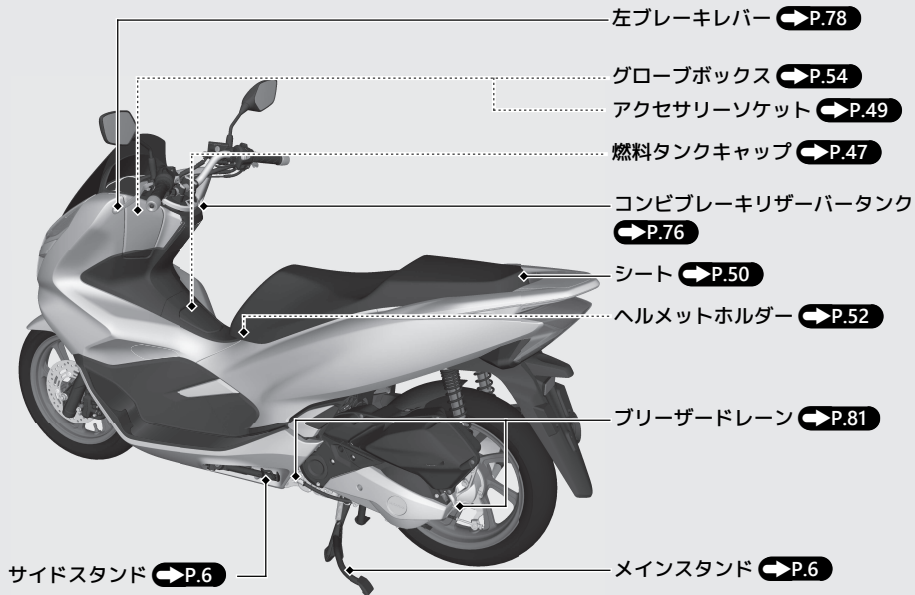
手前で十分に減速して・・・



スロットルをゆっくり回して加速します。

各部の名称





メーター



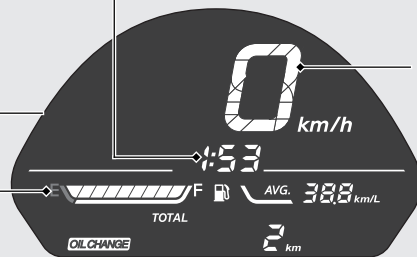
メーターの初期表示

メインスイッチを **I** (On) にすると、ディスプレイにオープニング表示があらわれます。表示されない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

時計 (12 時間表示)

時計の合わせかた ➡ P.21

スピードメーター (速度計)

**燃料計**

ガソリンの量を確認するときは、車体を垂直にしてください。

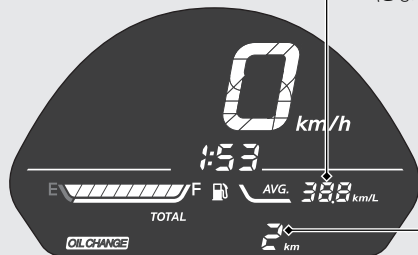
サイドスタンド状態では、正確な表示はしません。

マークが1つ (E) だけ点滅したときの燃料残量：約 1.3 l



燃料計の故障表示 ➡ P.95

メーター 前ページの続き



平均燃費 [AVG]

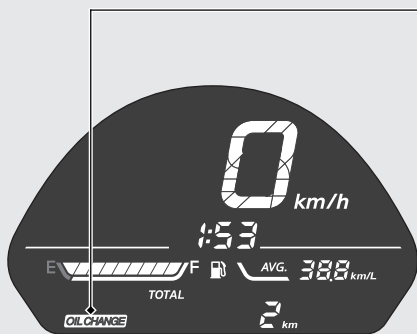
トリップメーターをリセットしてからの平均燃費を km/L の単位で表示します。

トリップメーターをリセットした場合を除いて表示が “-.-” になったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

オドメーター [TOTAL]、トリップメーター [TRIP]

[SEL] スイッチを押してオドメーターとトリップメーターを切替える。

- オドメーター：総走行距離
- トリップメーター：トリップメーターを表示中に **[SET]** スイッチを押し続け、0.0 km にリセットしてからの走行距離
 - ▶ トリップメーターをリセットすると、平均燃費もリセットされます。



OIL CHANGE エンジンオイル交換時期表示

- ▶ エンジンオイル交換時に必ずリセットしてください。リセットしないと交換時期の目安になりません。
- ▶ 工場出荷時の設定では、初回 1,000 km 走行時に点灯し、以降リセットした時点より 6,000 km 走行すると点灯します。点灯するまでの走行距離は調整することができます。 ➡ P.22

エンジンオイル交換時期表示のリセット

[SET] スイッチを押した状態でメインスイッチを **I** (On) にし、**[SET]** スイッチを約 3 秒間エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が消灯するまでそのまま押し続ける。

- ▶ エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が消灯しているときにリセットを行った場合は、エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が約 2 秒間点灯した後、消灯します。

メーター 前ページの続き

メーターの設定

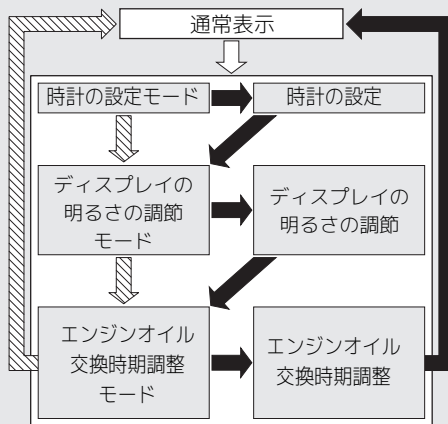
以下の順で設定します。

- 時計の設定
- ディスプレイの明るさの調節
- エンジンオイル交換時期調整

☞ SEL スイッチと SET スイッチを押し続ける

➡ SET スイッチを押す

▨ SEL スイッチを押す

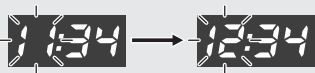


以下の方法でもメーターの設定から通常表示に戻ることができます。

- ・ 約 30 秒間スイッチの操作がない場合
- ・ メインスイッチを **○** (Off) にしてから **Ⅰ** (On) にする

1. 時計の合わせかた

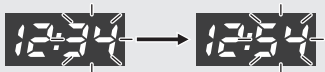
- 1 **Ⅰ** メインスイッチを **Ⅰ** (On) にする。
- 2 **SEL** スイッチと **SET** スイッチを押し続けると、時計の数字が点滅します。
- 3 **SET** スイッチを押すと、時の表示が点滅する。
- 4 **SEL** スイッチを押し、時を修正する。
▶ **SEL** スイッチを押し続けると数字が早く進みます。



- 5 **SET** スイッチを押し、時を決定する。決定と同時に分の表示が点滅する。



- 6 **SEL** スイッチを押し、分を修正する。
▶ **SEL** スイッチを押し続けると数字が早く進みます。



- 7 **SET** スイッチを押し、分を決定する。決定と同時にディスプレイの明るさの設定にかわる（ディスプレイの明るさ調整表示が点滅を開始します）。

2. ディスプレイの明るさ調整

明るさを 5 段階で調整できます。

- 1 **SET** スイッチを押すと、ディスプレイの明るさ調整表示の点滅が停止します。
- 2 **SEL** スイッチを押し、明るさを調整する。



- 3 **SET** スイッチを押し、明るさを決定する。決定と同時にエンジンオイル交換時期の設定にかわる（エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点滅を開始します）。

メーター 前ページの続き

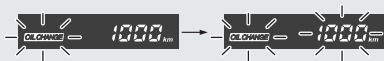
3. エンジンオイル交換時期調整

エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** のリセット後から **OIL CHANGE** が点灯するまでの走行距離を任意に設定することができます。エンジンオイル交換時期調整は停車中に行ってください。

アドバイス

エンジンオイル交換時期表示は、エンジンオイル交換の目安です。
メンテナンスノートに記載された交換時期をお守りください。

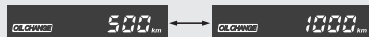
- 1 **SET** スイッチを押すと、交換時期とエンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点滅します。



- 2 **SEL** スイッチを押し、交換時期を設定する。
▶ 500 km ~ 6,000 km の間で 500 km ごとに設定できる。

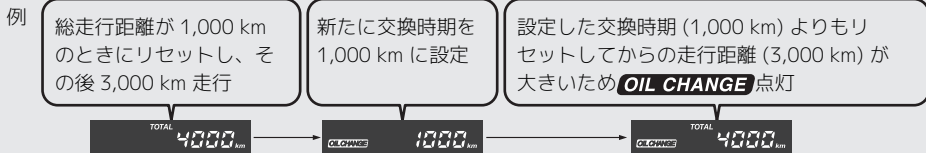


- ▶ エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** の初回リセット前かつ総走行距離が 1,000 km 未満の場合：500 km または 1,000 km を選択する。

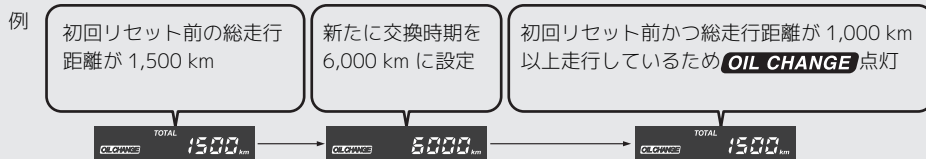


3 **SET** スイッチを押し、設定を決定する。決定と同時に通常表示に切り換わる。

- ▶ 設定した交換時期は再調整するまで引き継がれます。
- ▶ 30 秒間操作がない場合、通常表示に切り換わり、設定は有効となります。
- ・新しく設定した交換時期よりも、エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** リセット後からの走行距離が大きい場合、エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点灯します。



- ・エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** の初回リセット前かつ総走行距離が 1,000 km 以上の場合も、エンジンオイル交換時期表示 **OIL CHANGE** が点灯します。



警告灯 / 表示灯

警告灯 / 表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

☰ ハイビームパイロットランプ

(前照灯上向き表示灯)

メインスイッチを **I** (On) にすると点灯し、数秒後に消灯

Ⓐ アイドリングストップ表示灯

メインスイッチを **I** (On) にすると点灯し、数秒後に消灯
アイドリングストップ・システム

➡ P.39



🔥 PGM-FI 警告灯

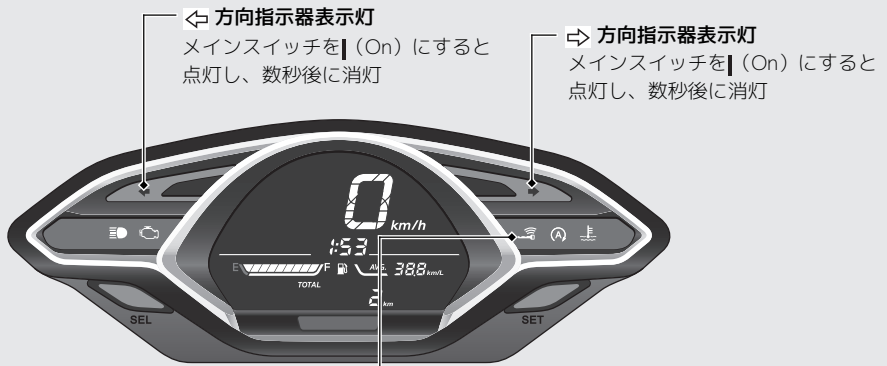
メインスイッチを **I** (On) にすると点灯し、数秒後に消灯

走行中またはアイドリング中に点灯、点滅したときは ➡ P.88

🌡️ 水温警告灯

メインスイッチを **I** (On) にすると点灯し、数秒後に消灯

走行中またはアイドリング中に点灯したときは ➡ P.87



⇐ 方向指示器表示灯

メインスイッチを **I** (On) にすると
点灯し、数秒後に消灯

⇒ 方向指示器表示灯

メインスイッチを **I** (On) にすると
点灯し、数秒後に消灯

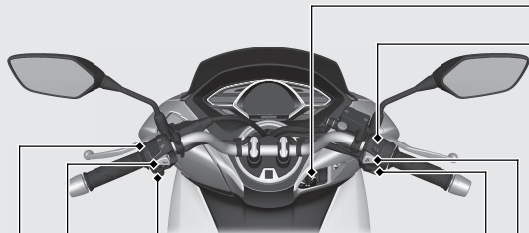
🔑 Honda SMART Key 警告灯

車両と Honda SMART Key の照合が完了すると点灯し、メ
インスイッチの操作が可能になる

メインスイッチを **I** (On) にすると消灯

Honda SMART Key 警告灯が点滅したときは ➡ P.89

スイッチ



↔ ウィンカー（方向指示器）スイッチ

▶ 解除はスイッチを押して行います。

📢 ホーンスイッチ

ヘッドライト（前照灯）上下切り換えスイッチ

- ≡D (HI) : ヘッドライトが上向き
- ≡D (LO) : ヘッドライトが下向き

アイドリングストップモード
切り換えスイッチ

- IDLING STOP : アイドリング
ストップ・システム作動
- IDLING : アイドリングストップ・
システム解除

アイドリングストップ・システム

➡ P.39

⚠ ハザード（非常駐車灯）スイッチ
メインスイッチが **I** (On) の時に使用
できる

③ スタータースイッチ

🔌 メインスイッチ

電気回路の ON / OFF、ハンドルロック、シート・燃料タンクリッドを開けるときに使用

メインスイッチを解錠するには ➡ P.34

⏻ (On)

始動・走行

SEAT FUEL

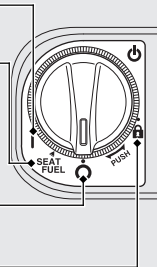
シート、燃料タンクリッドを開けることができる

⏻ (Off)

停止

🔒 (Lock)

ハンドルロックができる



🏍️ アンサーバックスイッチ

アンサーバックシステムの操作に使用

アンサーバックシステム

➡ P.37



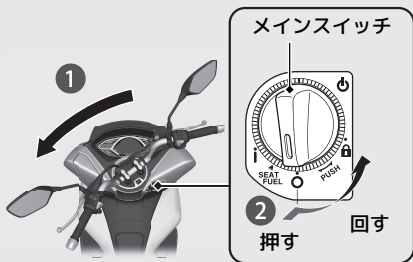
📶 Honda SMART Key ON / OFF スイッチ

Honda SMART Key システムの作動可能状態と作動停止状態の切り換えおよび、作動状態の確認に使用 ➡ P.33

スイッチ 前ページの続き

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
U字ロックなどの使用も推奨します。



かけかた

- ① ハンドルを左または右にいっぱいにする。
- ② メインスイッチを押し込みながら、**🔒** (Lock) の位置まで回す。
 - ▶ メインスイッチを解錠するには **➡P.34**
 - ▶ ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。
- ③ メインスイッチを施錠する。 **➡P.35**

外しかた

メインスイッチを押し込みながら、**○** (Off) の位置まで回す。

- ▶ メインスイッチを解錠するには **➡P.34**

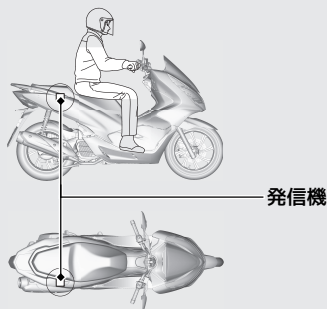
Honda SMART Key システム

Honda SMART Key システムは、車両と Honda SMART Key の間で相互認証を行い、登録された Honda SMART Key であることを確認することで、キーシリンダーにキーを差し込むことなくメインスイッチの操作が行えるシステムです。

発信機位置と作動範囲

発信機位置

Honda SMART Key システムは、車両と Honda SMART Key の間で電波による通信を行っています。



⚠ 注意

車両の発信機から Honda SMART Key システムの電波が発信されます。

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える可能性があります。

発信機から 22 cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を近づけないようにしてください。

その他の医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用電子機器製造業者に影響を確認してからご使用ください。

Honda SMART Key システム 前ページの続き

作動範囲

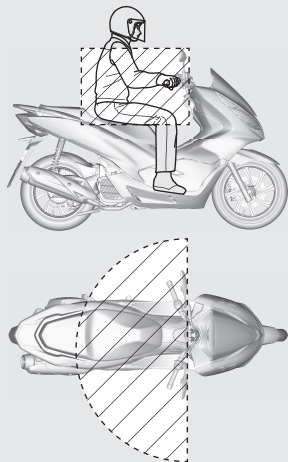
作動範囲はメインスイッチの解錠/施錠の状態により変化します。

Honda SMART Key システムは、微弱電波を使用しているため、使用環境により作動範囲が広くなったり、狭くなったりすることがあります。また、以下の使用環境では正常に作動しないことがあります。

- Honda SMART Key の電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
- Honda SMART Key と一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- Honda SMART Key が金属製のものに接したり、覆われているとき

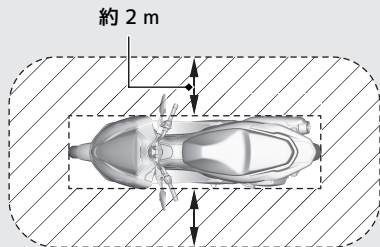
メインスイッチ解錠時の作動範囲

イラストの斜線範囲内でシステムが作動可能です。



■メインスイッチ施錠時の作動範囲

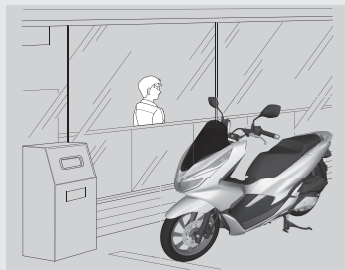
イラストの斜線範囲内でシステムが作動可能です。



ガラス越しや壁越しなどの隔てた場所でも Honda SMART Key が車の作動範囲内にあると、他の人でもメインスイッチの解錠およびエンジン始動が可能です。

車から離れていても Honda SMART Key の作動範囲内の場合は、Honda SMART Key システムを作動停止状態にしてください。

Honda SMART Key システムを作動停止状態に切り換えるときは **➡P.33**



Honda SMART Key システム 前ページの続き

Honda SMART Key システム作動範囲内に Honda SMART Key を携帯している人がいるときは、携帯していない他の人でも以下の操作が可能になります。

- エンジンの始動
- メインスイッチの解錠
- シートロックの解除
- 燃料タンクリッドを開く
- ハンドルロックの解除

乗車時や車から離れるときは、必ず運転者が Honda SMART Key を携帯してください。

Honda SMART Key をトランクに入れしないでください。

メインスイッチを I (On) の位置にしておくと、Honda SMART Key を携帯していない他の人でもエンジン始動が可能です。

車から離れるときはハンドルロックをかけメインスイッチを施錠してください。➡P.35

メインスイッチ照明が消灯し、全ての方向指示器が 1 回点滅します。

Honda SMART Key システムの作動状態の切り換え

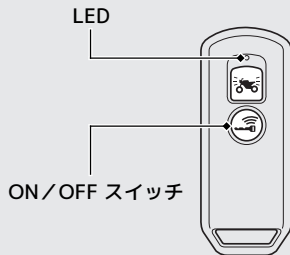
■ 作動可能状態と作動停止状態の切り換え

ON/OFF スイッチを LED の色が変わるまで押し続ける。

■ 作動状態の確認

ON/OFF スイッチを軽く押すと LED が点灯し作動状態が確認できる。

- 緑色： Honda SMART Key
（作動可能状態）システムの認証ができる
- 赤色： Honda SMART Key
（作動停止状態）システムの認証ができない



Honda SMART Key システム 前ページの続き

メインスイッチの解錠/施錠

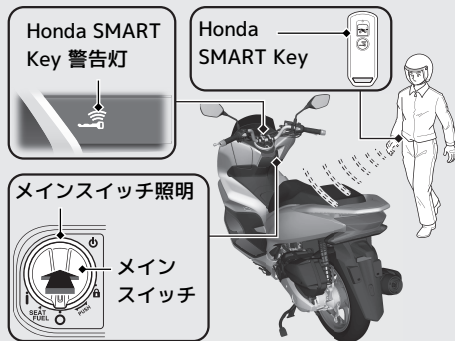
メインスイッチの解錠

- 1 Honda SMART Key システムが作動可能状態であることを確認する。➡P.33
- 2 メインスイッチを押す。
 - ▶ 正常に認証が行われると、メインスイッチが解錠され、Honda SMART Key 警告灯とメインスイッチ照明が点灯します。
- 3 Honda SMART Key 警告灯が点灯している間に、メインスイッチをI (On) にする。
 - ▶ メインスイッチを押した後、約 20 秒以内にメインスイッチをI (On) にしなかった場合、Honda SMART Key 警告灯とメインスイッチ照明が消灯し、方向指示器が 1 回点滅してから、メインスイッチが施錠されます。



Honda SMART Key システムが正しく作動しないとき ➡P.99

Honda SMART Key を携帯していない人がメインスイッチを回そうとした場合、メインスイッチは空回りします。

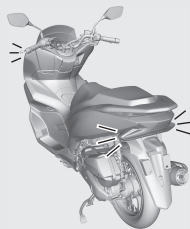
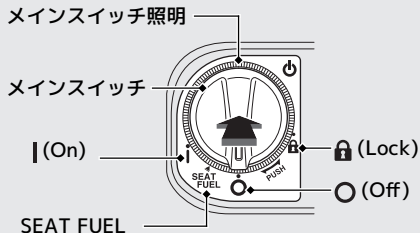
メインスイッチが施錠した位置と違うときは、施錠した位置 (O (Off)、または L (Lock)) に戻してください。



メインスイッチの施錠

- 1 メインスイッチを SEAT FUEL、○ (Off)、または  (Lock) の位置にする。
- 2 以下のいずれかの方法でメインスイッチを施錠する。
 - Honda SMART Key を携帯して作動範囲から離れる。➡P.30
 - メインスイッチを押す。
 - メインスイッチを SEAT FUEL、○ (Off)、または  (Lock) の位置にしてから、約 20 秒間待つ。
 - Honda SMART Key システムを作動停止状態にする。➡P.33
- 3 Honda SMART Key 警告灯とメインスイッチ照明が消灯し、方向指示器が 1 回点滅したことを確認する。
これはメインスイッチが施錠されたことを示します。

Honda SMART Key システムが正しく作動しないとき ➡P.99



Honda SMART Key システム 前ページの続き

車から離れるときは、必ずメインスイッチが○
(Off) または🔒 (Lock) の位置にあることを確認してください。

メインスイッチを SEAT FUEL の位置で施錠した場合は一度だけ○ (Off) に回すことができます。

メインスイッチを○ (Off) の位置で施錠すると、ハンドルロックをかけられません。ハンドルロックをかけるにはメインスイッチを解錠してください。

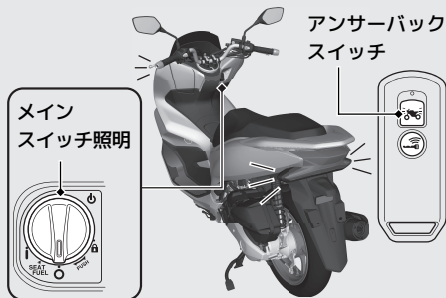
アンサーバックシステム

アンサーバックシステムは車の位置を見つけるための機能です。

メインスイッチが○ (Off) または🔒 (Lock) のときに、Honda SMART Key のアンサーバックスイッチを押すと、方向指示器が点滅し、メインスイッチ照明が点灯することで車の位置を知らせます。

メインスイッチ照明は約 1 分間点灯します。

アンサーバックシステムは微弱な電波を使用しています。植え込み型心臓ペースメーカーなどの医療用電子機器に影響を与える可能性があります。



アンサーバックシステム 前ページの続き

■ 使いかた

Honda SMART Key のアンサーバックスイッチを押す。

- ▶ メインスイッチが **I** (On) のときはアンサーバックシステムは作動しません。

メインスイッチが **O** (Off) または **L** (Lock) の位置で 10 日以上経過すると、アンサーバックシステムは作動停止状態になります。

アンサーバックシステムが作動可能な期間にアンサーバックスイッチを押して車両が信号を受信すると、アンサーバックシステムが作動停止状態になるまでの期間が、その時点から 10 日間延長されます。

システムの作動停止状態を解除するには、メインスイッチを一度 **I** (On) にしてください。

- ▶ メインスイッチを解錠するには **➡ P.34**

アドバイス

車のバッテリーが弱っているときはアンサーバックシステムが作動しないことがあります。

アイドリングストップ・システム

アイドリングストップ・システムは、信号待ち等の停車時にアイドリングストップ（エンジンを停止）することで燃料消費の低減および騒音の抑制を目的としたシステムです。

■ アイドリングストップ・システムの切り換え

アイドリングストップ・システムの作動と解除の切り換えを、アイドリングストップモード切り換えスイッチにて行います。

作動の場合：IDLING STOP にします。

- ▶ 走行中にアイドリングストップが可能な状態になるとアイドリングストップ表示灯が点灯、停車後アイドルストップ状態のときに点滅します。

解除の場合：IDLING にします。

- ▶ アイドリングストップ・システムを解除した場合、アイドリングストップ表示灯は消灯のままとなります。

■ アイドリングストップ・システムの起動

アイドリングストップモード切り換えスイッチが IDLING STOP の位置で下記条件を満たすと、アイドリングストップが可能な状態となり、アイドリングストップ表示灯が点灯します。

- サイドスタンドを格納していること
- スタータースイッチによりエンジンが始動されていること
- エンジンが十分に暖機されていること
- 車速 10 km/h 以上で走行していること

■ アイドリングストップ表示灯が点灯しないときは P.96

アイドリングストップ
モード切り換えスイッチ



アイドリングストップ
表示灯（点灯）

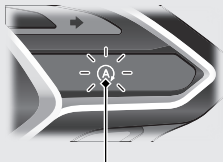


アイドリングストップ・システム 前ページの続き

■ アイドリングストップ（エンジンの停止）

アイドリングストップ表示灯が点灯しているときに、スロットルグリップを完全に戻し、停車するとアイドリングストップし、アイドリングストップ表示灯が点滅します。

- ▶ アイドリングストップ中に、アイドリングストップモード切り換えスイッチを IDLING にする操作を行うと、アイドリングストップ・システムが解除され、スロットルグリップを回してもエンジンは再始動しません。



アイドリングストップ表示灯（点滅）

■ アイドリングストップ表示灯が点灯しているがアイドリングストップしないときは

➡ P.97

アドバイス

長時間のアイドリングストップ（エンジンの停止）はバッテリーあがりの原因となります。

■ アイドリングストップ・システムを安全に使用するために

アイドリングストップ表示灯が点滅している状態で車から離れないでください。車から離れるときは、必ずメインスイッチを○（Off）にしてください。

- ▶ スロットルグリップを回すと、エンジンが再始動するおそれがあります。

エンジンの再始動

アイドリングストップ表示灯の点滅を確認し、スロットルグリップを回す。

- ▶ アイドリングストップ表示灯が点滅していないとスロットルグリップを回しても、エンジンは再始動しません。
- ▶ アイドリングストップ状態でサイドスタンドを出すと、アイドリングストップ表示灯が点滅から点灯に切り換わり、アイドリングストップ・システムが解除されます。

スロットルグリップを回してもエンジンが 始動しないときは P.97

アドバイス

アイドリングストップ・システムが作動しエンジンが停止した状態でもヘッドライトは点灯しています。

バッテリーが弱っている際にこの状態が続くと、バッテリーがあがって再始動できなくなるおそれがあります。バッテリーが弱っているときは、アイドリングストップモード切り換えスイッチを IDLING にし、アイドリングストップしないようにしてください。

バッテリーの点検は6か月ごとに Honda 販売店で行ってください。

エンジン始動

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。

この車は、イグニッションカットオフ式サイドスタンドを装備しています。

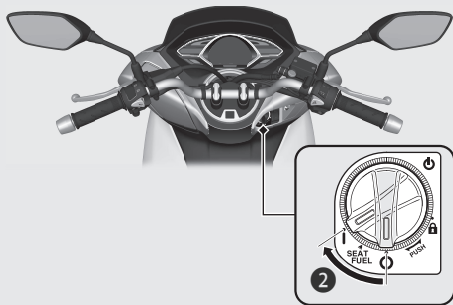
- ▶ サイドスタンドを出したままでは、エンジンが始動しません。エンジンを始動する前に、必ずサイドスタンドを格納してください。
- ▶ エンジンが始動しているときにサイドスタンドを使用すると、エンジンが停止します。サイドスタンドは、エンジンを停止してから使用してください。

この車は Honda SMART Key システムを装備しています。乗車中は、Honda SMART Key を常に携帯してください。

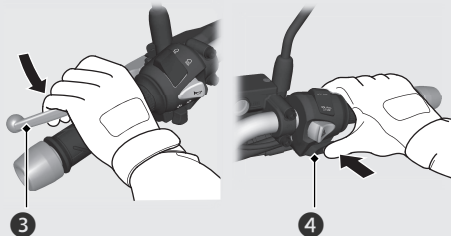
アドバイス

- スタータースイッチを押して 5 秒以内にエンジンがかからないときは、一度メインスイッチを○(Off)にしてください。その後バッテリー電圧回復のため 10 秒ほど経ってからやり直してください。
- 無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- 万一転倒した場合は、一旦メインスイッチを○(Off)にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

- 1 メインスタンドを立てる。 ➡ P.6
- 2 メインスイッチを I (On) に回す。
▶ メインスイッチを解錠するには ➡ P.34



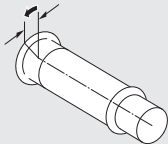
- 3 左ブレーキレバーを強く握り、タイヤをロックする。
▶ 左ブレーキレバーを強く握った状態でないとエンジンはかかりません。
- 4 スロットルグリップを完全に閉じたまま、スタータースイッチを押す。
▶ エンジンがかかったらすぐに、スタータースイッチから手をはなしてください。



エンジン始動 前ページの続き

- ▶ もし、エンジンがかからない場合は、スロットルグリップをわずかに（遊びを除いて 3 mm 程度）回しながら、スタータースイッチを押してください。

遊びを除いて 3 mm 程度



エンジンがかからないときは

次の方法を試してください。

- ① スロットルグリップを全開にし、スタータースイッチを 5 秒間押す。
- ② 通常手順（②～④）でエンジンをかける。
- ③ エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し（3 mm 程度）開ける。
- ④ エンジンがかからないときは 10 秒間待ってから、①②の手順を繰り返す。

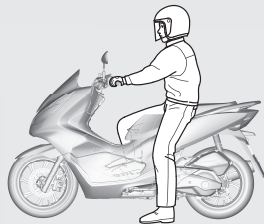
長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給してもエンジンがかかりにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを普段より多めに使用してください。バッテリーあがりを防ぐため、スターターモーターは連続して 15 秒以上回さないでください。15 秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度メインスイッチを○（Off）に戻して 10 秒以上待ってから再始動してください。

それでも始動できないときは ➡ P.86

正しい運転の操作

スタートの手順

- ① 左ブレーキレバーを強く握ったまま、車を前にゆっくり押しメインスタンドを外す。
 - ▶ エンジンをかけてから走り出すまではエンジンの回転をむやみにあげないでください。
 - ▶ 乗車する前に、サイドスタンド、メインスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- ② 車の左側から乗車し、正しい乗車姿勢でシートにしっかりと腰をおろす。このとき足で車が倒れないように支える。
 - ▶ 乗車してスタートするまでは左ブレーキレバーを強く握ったままにしておいてください。



正しい運転の操作 前ページの続き

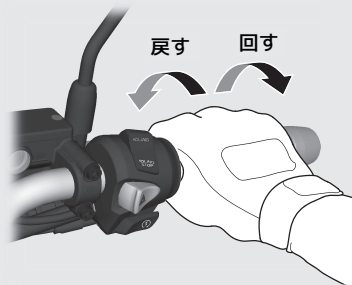
③ 左ブレーキレバーをはなし、スロットルグリップをゆっくり回し、発進する。

- ▶ スロットルグリップをいきなり手前に回すと急加速して危険です。

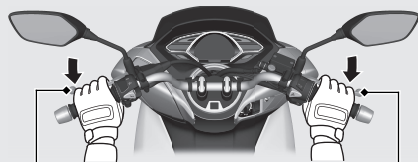
スロットルグリップで速度調整を行う。

加速する・・・スロットルをゆっくり回す。

減速する・・・スロットルをすばやく戻す。



ブレーキの使いかた



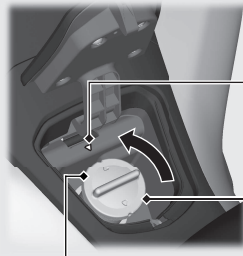
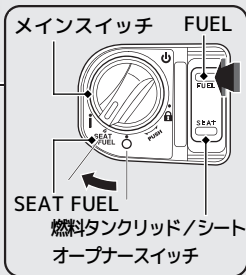
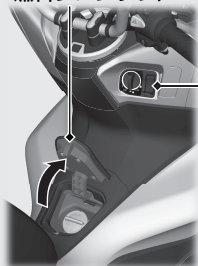
左ブレーキレバー

右ブレーキレバー

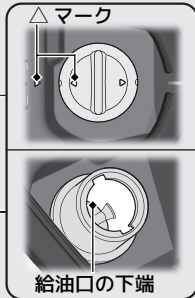
ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。

燃料補給

燃料タンクリッド



燃料タンクキャップ



燃料がにじみ出ることがあるので、給油口の下
端以上入れないでください。

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：8.0 ℓ

燃料についての注意 ➡P.8

燃料タンクキャップの開けかた

- ① メインスイッチを回し、SEAT FUEL の位置にする。
▶ メインスイッチを解錠するには ➡P.34
- ② 燃料タンクリッド/シートオープナースイッチの FUEL を押して、燃料タンクリッドを開ける。
- ③ 燃料タンクキャップを左に回して取り外す。

燃料補給 前ページの続き

燃料タンクキャップの閉じかた

- ① 燃料タンクキャップを取り付けて、右に回して閉める。
 - ▶ 燃料タンクキャップの△マークとタンク上面の△マークが合うところまで確実に回してください。
- ② 燃料タンクリッドを閉じる。

警告

ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

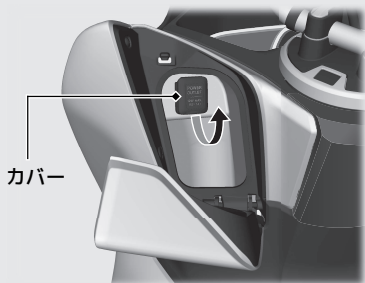
燃料補給およびガソリンの取り扱い  P. 8

アクセサリースOCKET

アクセサリースOCKETは、グローブボックス内にあります。➡P.54

接続する機器についてはご自身の責任でお使いください。

カバーを開けてお使いください。
定格 12 W (12 V、1 A)まで使用できます。



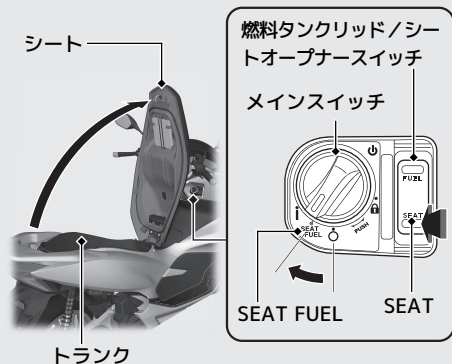
- ▶ バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でお使いください。
- ▶ バッテリーあがりやソケットの損傷を防ぐため、機器を使用している間は、ヘッドライトは下向きにしてください。
- ▶ ソケットへの異物侵入を防ぐために、使用しないときはカバーを閉めてください。

アドバイス

- 発熱する機器や定格以上の機器を使用しないでください。
- ソケットが濡れた状態では使用しないでください。

その他装備の使いかた

トランク



シートの開けかた

- ① ハンドルを直進状態にする。
- ② メインスイッチを回し、SEAT FUEL の位置にする。
▶ メインスイッチを解錠するには **▶P.34**
- ③ 燃料タンクリッド/シートオープナースイッチの SEAT を押して、シートを開ける。

シートの閉じかた

シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。

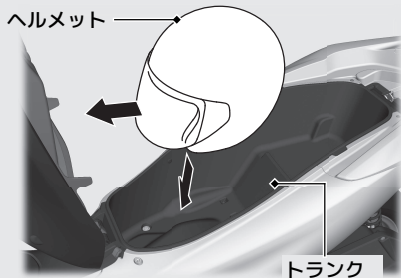
シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。

- ▶ Honda SMART Key やエマージェンシーキー、ID タグをトランクに入れしないでください。

最大積載量を超えて荷物を積まないでください。

最大積載量：10 kg

トランクにヘルメットを収納することができません。ヘルメットの前側をトランク前方に向けて収納してください。



- ▶ ヘルメットの種類や形状、大きさなどにより、一部収納できない場合があります。

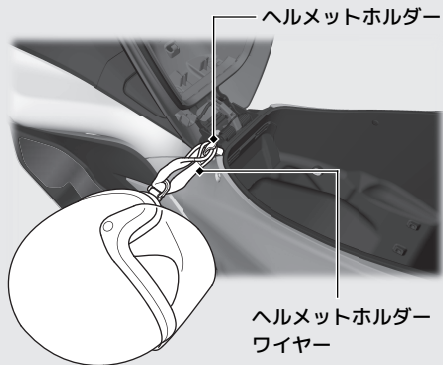
アドバイス

トランク内に貴重品やこわれやすいもの、熱の影響を受けやすいものは入れないでください。また、トランク本体が損傷する場合がありますので、固くて重いものを入れたまま走行しないでください。

その他装備の使いかた 前ページの続き

ヘルメットホルダー

シート下にヘルメットホルダーがあります。



- ▶ ヘルメットホルダーは駐車時のみお使いください。

シートの開けかた ➡ P.50

ヘルメットホルダーワイヤーをヘルメットのあごひもの金具に通し、ヘルメットホルダーにかかけます。

ヘルメットホルダーワイヤーは、携帯工具の中にあります。 ➡ P.53

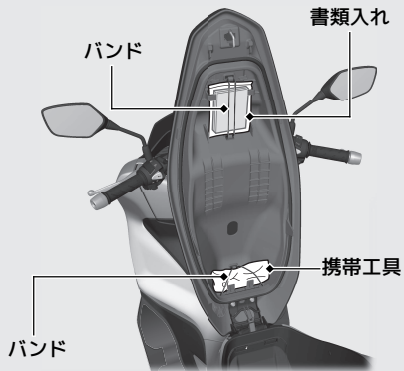
警告

ヘルメットホルダーにヘルメットをつけたまま走行しないでください。

走行の妨げになり、重傷を負ったり死亡したりする事故が発生することがあります。

携帯工具、書類入れ

携帯工具と書類入れはシート裏側にバンドで収納します。

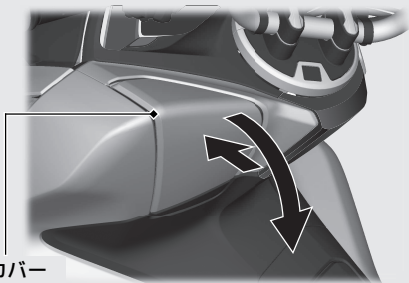


シートの開けかた ➡ P.50

その他装備の使いかた 前ページの続き

グローブボックス

ハンドルの左下にグローブボックスがあります。



最大積載量を超えて荷物を積まないでください。

最大積載量：1 kg

開けかた

カバーを押して開けます。

閉じかた

カバーを前方へ押しこみます。しっかり閉まっているか確認してください。

アドバイス

グローブボックス内に貴重品やこわれやすいものは入れないでください。また、グローブボックス本体が損傷する場合がありますので、固くて重いものを入れたまま走行しないでください。

メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。
また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

メンテナンスの基礎知識	P. 56
主要部品の脱着方法	P. 67
バッテリー	P. 67
バッテリーカバー	P. 68
メンテナンスリッド	P. 69
エンジンオイル.....	P. 70
トランスミッションオイル.....	P. 72
冷却水	P. 74
ブレーキ	P. 76
ブリーザードレン	P. 81
スロットル.....	P. 82
その他の交換.....	P. 83
Honda SMART Key の電池交換.....	P. 83

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年ごと（12か月ごと）、2年ごと（24か月ごと）の定期点検整備を設けてあります。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。


警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- ・ 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- ・ 異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- メインスイッチを○(Off)にしてエンジンを停止し、Honda SMART Key システムが作動停止状態で行う  P. 33
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に準じ、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。

異音や異状を感じたときは、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

Ⅰ 日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

● ブレーキ

- ・ レバーの遊び（油圧式）
- ・ レバーの遊び（機械式）
- ・ ブレーキの効き具合
- ・ ブレーキ液の量

● タイヤ

- ・ 空気圧
- ・ 亀裂、損傷
- ・ 異状な摩耗
- ・ 溝の深さ

● エンジン

- ・ 冷却水の量
- ・ オイルの量
- ・ かかり具合、異音
- ・ 低速、加速の状態

● 灯火装置および方向指示器

● 運行において異状が認められた箇所

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから1か月目（または、1,000 km 時）に行う点検、Honda が指定する点検整備項目もあります。

Ⅱ 道路運送車両法に準じて設けられた点検

道路運送車両法に準じて設けられた点検には、以下の種類があります。

- 日常点検
- 1年ごと（12か月ごと）に行う点検
- 2年ごと（24か月ごと）に行う点検

■ご自身で点検を実施する場合

安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda 販売店にご相談ください。

点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

■1 か月目点検について

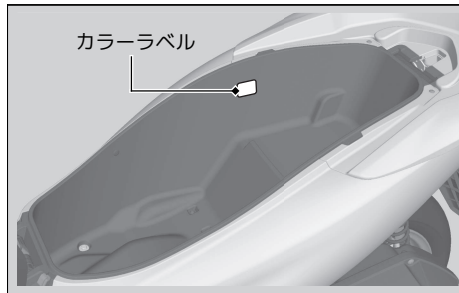
新車から1 か月目（または、1,000 km 時）は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげの Honda 販売店で行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

■交換部品について

整備の際は、Honda 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは、シートを開けると確認できます。

▶ P. 50



⚠ 警告

Honda 純正部品以外のアクセサリ・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

Honda 純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス

バッテリーには寿命があります。交換時期については、Honda 販売店にご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

Ⅰ 万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
 - ▶ コップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。

- 電解液が皮膚に付着したとき
 - ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
- 電解液を飲み込んだとき
 - ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

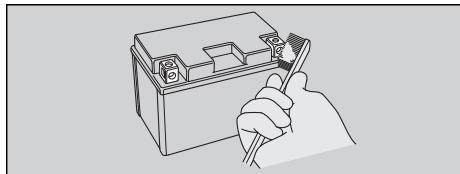
警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- ・ バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- ・ バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ・ ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

ターミナル部の清掃

1. バッテリーを取り外す。▶ P. 67
2. ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭く。
3. ターミナル部の腐食が著しいときは、ワイヤーブラシまたはサンドペーパーで磨く。



4. 清掃後、バッテリーを取り付ける。

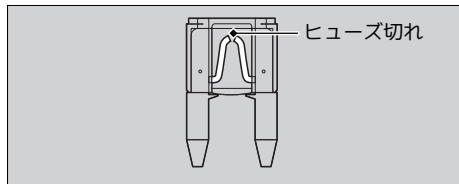
電装部品やアクセサリを取り付けるときは純正アクセサリをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。▶ P. 101

ヒューズの点検・交換

メインスイッチを○(Off)にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。▶ P. 117



アドバイス

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱・焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

エンジンオイル

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。

オイル交換は Honda 販売店で行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。▶ P. 116

エンジンオイルの選びかた

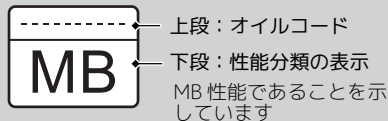
推奨エンジンオイル：

Honda 純正 ウルトラ E1

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※1：MB
- SAE 規格※2：10W-30
- API 分類※3：SG・SH・SJ・SL 級相当

※1: JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※2: SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3: API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません



推奨します

トランスミッションオイル

トランスミッションオイルの選びかた

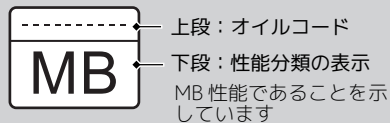
推奨トランスミッションオイル：

Honda 純正 ウルトラ E1

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格^{※1}：MB
- SAE 規格^{※2}：10W-30
- API 分類^{※3}：SG・SH・SJ・SL 級相当

※1: JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



※2: SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。

※3: API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません



推奨します

ブレーキ液

銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

アドバイス

ブレーキ液は、プラスチックや塗装面を損傷します。漏れたブレーキ液は直ちに拭き取ってください。

指定ブレーキ液：

Honda 純正ブレーキフルード
DOT 3 または DOT4

冷却水

Honda 純正ウルトララジエーター液を、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

標準濃度：50%

濃度による不凍温度：

30% の場合：-16°C まで

50% の場合：-37°C まで

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適當な水（井戸水や天然水）を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリナー

この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリナーエレメントが装備されており点検・清掃は不要ですが定期的な交換が必要です。

エアクリナーエレメントの交換は、Honda 販売店にご相談ください。交換時期はスペックページをご確認ください。▶ P. 116

ブリーザードレン

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレンの清掃が必要です。▶ P. 81

タイヤ

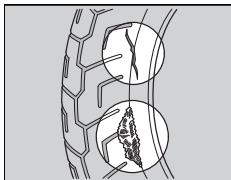
■ 空気圧の点検

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも1か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。

タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなる場合がありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

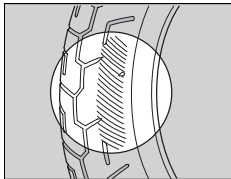
■ 亀裂と損傷の点検

タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。



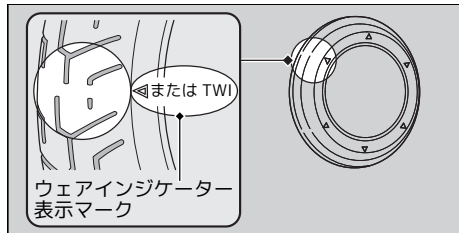
■ 異状な摩耗の点検

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。



溝の深さの点検

ウェアインジケーター（スリップサイン）により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。



警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

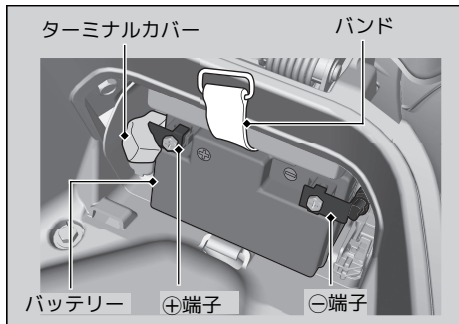
タイヤの交換は、Honda 販売店にご相談ください。指定タイヤ、空気圧はスペックページをご確認ください。▶ P. 116



指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

バッテリー



Ⅰ取り外し

メインスイッチが○ (Off) になっていることを確認してください。

1. バッテリーカバーを取り外す。▶ P. 68
2. バンドを取り外す。
3. ⊖端子のボルトを外し、⊖コードを外す。

4. ターミナルカバーをめくり、⊕端子のボルトを外し、⊕コードを外す。
5. 端子のナットを落とさないようにバッテリーを取り出す。

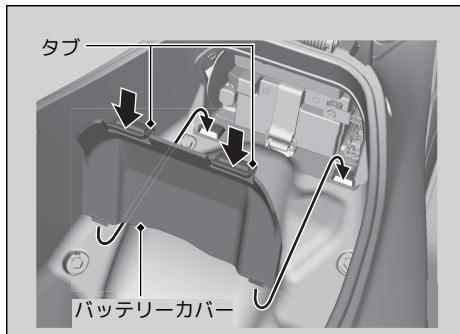
Ⅱ取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取り付けてください。また、ターミナル部にゆるみが生じないように、確実にボルトを締め付けてください。

バッテリーコードを再び取り付けたときに、時計の表示がずれている場合は合わせ直してください。▶ P. 21

バッテリーの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。▶ P. 59

バッテリーカバー



Ⅰ取り外し

シートを開ける。▶ P. 50

タブを押しながらバッテリーカバーを外す。

Ⅱ取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

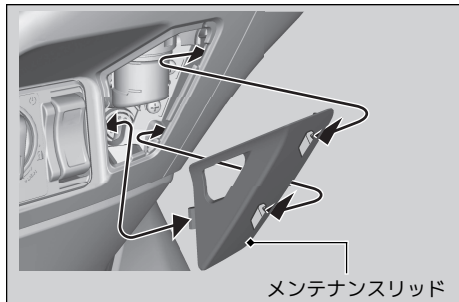
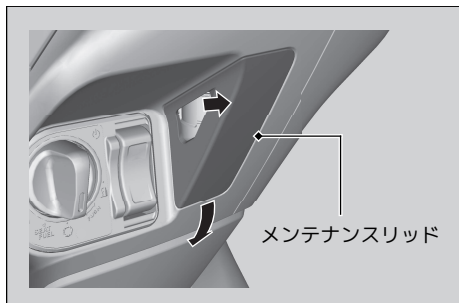
メンテナンススリッド

Ⅰ取り外し

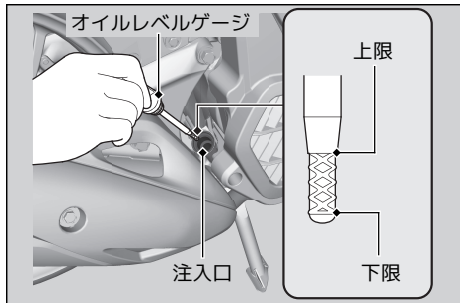
メンテナンススリッドの側面を押しながらメンテナンススリッドを外す。

Ⅱ取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。
取り付け後は、メンテナンススリッドが確実に取り付けられているか確認してください。



オイルの量の点検



エンジンオイルの点検は、アイドリングストップモード切り換えスイッチを IDLING にして行ってください。

1. エンジンが冷えている場合は、3～5分ほどアイドリングさせる。
2. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止め、2～3分間待つ。
3. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
4. オイルレベルゲージを外す。
5. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭く。
6. オイルレベルゲージをねじ込まずに差し込む。
7. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認する。
8. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。

オイルの補給

エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。▶ P. 61, ▶ P. 116

1. エンジンオイルの点検後、オイルレベルゲージで確認 (▶ P. 70) しながら、オイルを注入口より補給する。
 - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
 - ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。
2. オイルレベルゲージを確実に取り付ける。

アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。

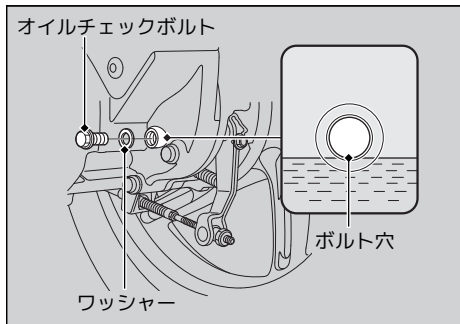
▶ P. 61

オイル漏れの点検

エンジンなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

オイルの量の点検

トランスミッションオイルの点検は、アイドリングストップモード切り換えスイッチをIDLINGにして行ってください。



1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. オイルチェックボルト、ワッシャーを外す。
3. オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認する。
4. ワッシャーを新品に交換し、オイルチェックボルトを確実に取り付ける。

オイルの補給

オイルの油面が低い場合は、推奨オイルをボルト穴の下端まで補給してください。

- 上限を超えて補給しない
- ゴミが入らないようにする
- オイルをこぼしたときは完全に拭き取る

アドバイス

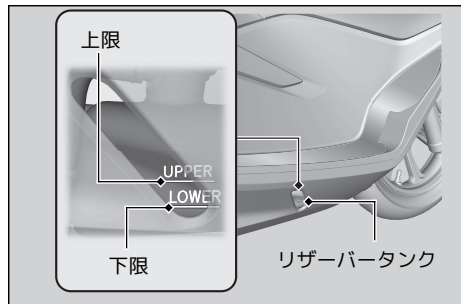
オイルは規定量より多くても少なくても、トランスミッションに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

推奨トランスミッションオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。➡ P. 62

オイル漏れの点検

トランスミッションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。

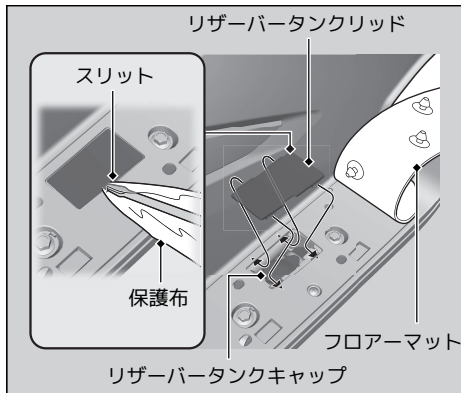
冷却水の量の点検



1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. 冷却水がリザーバータンクの上限 (UPPER) と下限 (LOWER) の間にあることを確認する。

冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバータンクに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。Honda 販売店にご相談ください。

冷却水の補給



冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. 冷却水の点検後、右側フロアーマットをめくる。
2. マイナスドライバーを保護布で覆い、スリットに挿入し、リザーバータンクリッドを取り外す。

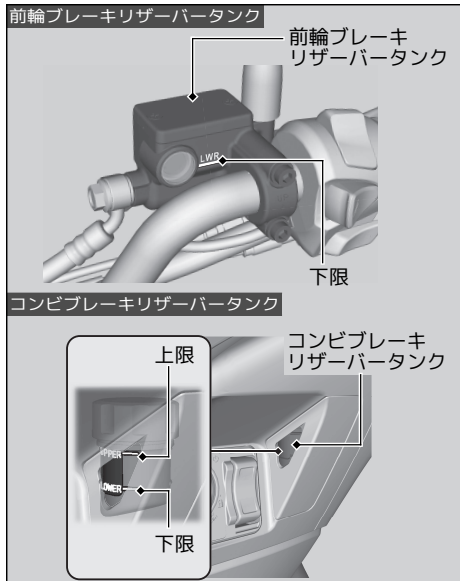
3. リザーバータンクキャップを取り外す。
4. 平坦地で車体を垂直にし、冷却水 (▶ P. 63) のレベルを確認 (▶ P. 74) しながら補給する。
 - ▶ 上限 (UPPER) を超えて補給しないでください。
 - ▶ ゴミが入らないようにしてください。
5. リザーバータンクキャップを確実に取り付ける。
6. リザーバータンクリッドを取り付ける。
7. フロアーマットを取り付ける。

警告

エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

ブレーキ液の点検

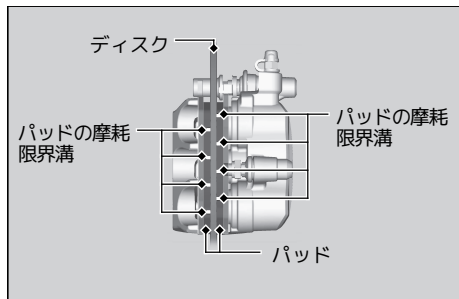


1. 足場のしっかりとした平坦地にメインスタンドを立てる。
2. **前輪ブレーキリザーバータンク**
リザーバータンク上面を水平にし、液面が点検窓の下限（LWR）以上にあることを確認する。
3. **コンビブレーキリザーバータンク**
リザーバータンク上面を水平にし、液面が点検窓の上限（UPPER）と下限（LOWER）の間にあることを確認する。
▶ 液面が下限以下の場合や右ブレーキレバーの遊びが大きいときは、ブレーキパッドの摩耗の点検を行ってください。

パッドが摩耗していない場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

前輪ブレーキパッドの摩耗の点検

パッドの摩耗限界溝が無くなったら、パッドの摩耗限界です。



摩耗限界に達したら左右同時にパッドを交換してください。

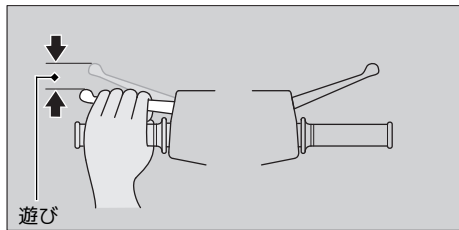
ブレーキパッドの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

ブレーキキャリパーの前側からのぞいて点検します。

後輪ブレーキレバーの遊びの点検

抵抗を感じるまで、左ブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

後輪ブレーキレバーの遊び：10 - 20 mm

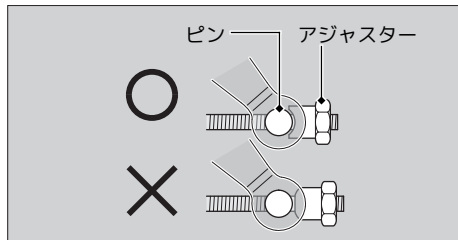


規定の範囲を超えている場合は調整してください。

後輪ブレーキレバーの遊びの調整

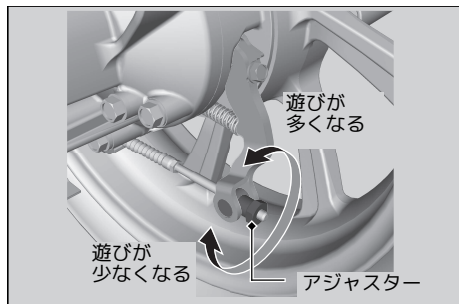
ブレーキの遊びはハンドルを直進状態にして調整します。

遊びの調整時は必ず、アジャスターの凹部をピンの凸部に一致させてください。

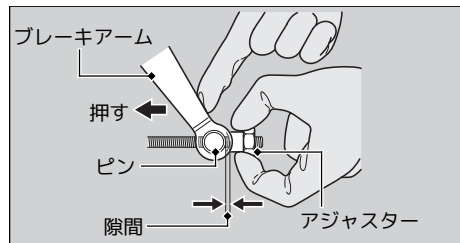


レバーの調整範囲を超えた場合や、詳しい遊びの調整については Honda 販売店にご相談ください。

1. 後輪のアジャスターを半回転ずつ回し、左ブレーキレバーの遊びを調整する。



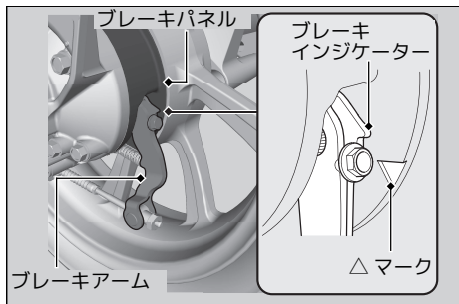
2. ブレーキアームを押し、アジャスターとピン間に隙間があることを確認する。



3. メインスタンドを立てて後輪を地面から浮かせ、ブレーキをかけない状態で後輪が軽く回ることを確認する。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

後輪ブレーキシューの摩耗の点検



左ブレーキレバーをいっぱい引いて、ブレーキインジケーターの先端とブレーキパネルの△マークが一致しないことを確認します。

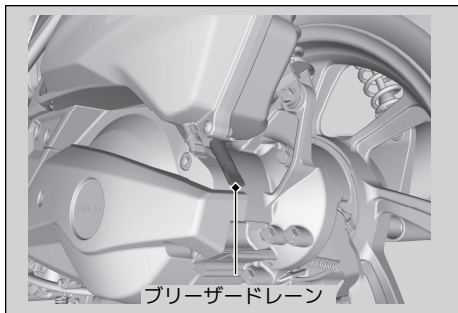
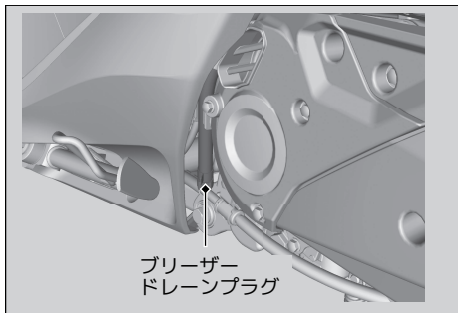
一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。ブレーキシューの交換は、Honda 販売店にご相談ください。

ブリーザードレンの清掃 (Honda 指定 1 年点検整備項目)

エンジンの性能を維持するためには、定期的なブリーザードレンの清掃が必要です。

Ⅰ 清掃のしかた

1. ブリーザードレンプラグの下に受け皿などを用意する。
2. ブリーザードレンの下に受け皿などを用意する。
3. ブリーザードレンプラグを外し、ブリーザードレン内の堆積物を取り除く。
4. ブリーザードレンを外し、ブリーザードレン内の堆積物を取り除く。
5. ブリーザードレンプラグを確実に取り付けする。
6. ブリーザードレンを確実に取り付けする。

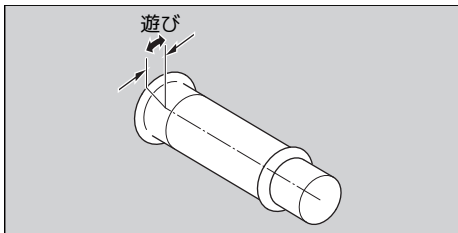


スロットルの点検

メインスイッチを○(Off)にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか、ハンドルを左右にきっても作動が重くないか、スロットルグリップの遊びが適正か点検します。異状を感じた場合やスロットルケーブル外表部に損傷があるときは Honda 販売店にご相談ください。

スロットルグリップの遊び：

2 - 6 mm



Honda SMART Key の電池交換

メインスイッチをI (On) にしたとき Honda SMART Key 警告灯が5回点滅した場合や作動距離が不安定になった場合は、早めに電池を交換してください。

電池を交換するときは、Honda SMART Key の各スイッチを押さないでください。

電池交換の際は Honda 販売店での交換をおすすめします。

使用電池：

ボタン電池 CR2032

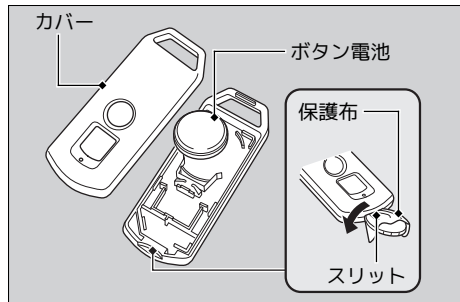
注意

ボタン電池および取り外した部品は小さいため、子供が誤って飲み込み、傷害を受ける可能性があります。

ボタン電池および取り外した部品を子供の手の届く所に置かないでください。

1. スリットに、保護布をあてたマイナスドライバーもしくはコインなどを差し込み、カバーを取り外す。
 - ▶ 傷つき防止のためマイナスドライバーもしくはコインなどは保護布をあててください。
 - ▶ 本体の内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
 - ▶ 防水シール部分の傷つきやゴミの混入にご注意ください。耐水性能の低下や故障の原因となります。
 - ▶ 電池交換の際、本体に無理な力を加えないでください。

2. 古いボタン電池を取り出し、新しいボタン電池の⊖側を上側にしてはめ込む。
3. カバーを取り付ける
 - ▶ カバーは正しい位置で取り付けられていることを確認してください。



こんなときは

エンジンが始動しない.....	P. 86	ヒューズ切れ.....	P. 101
オーバーヒート（水温警告灯が点灯）.....	P. 87	エンジンが一時的に不調になる.....	P. 102
警告灯が点灯／点滅.....	P. 88		
PGM-FI 警告灯.....	P. 88		
Honda SMART Key 警告灯.....	P. 89		
緊急時のシートロックの解除.....	P. 90		
緊急時のメインスイッチの解錠.....	P. 91		
その他の故障表示.....	P. 95		
燃料計の故障表示.....	P. 95		
アイドルングストップ・システムが正しく 作動しない.....	P. 96		
Honda SMART Key システムが正しく作動しな い.....	P. 99		
電装部品のトラブル.....	P. 101		

スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか
➡ P. 42
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- PGM-FI 警告灯が点灯していないか
▶ 点灯している場合は、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

スターターモーターが作動せず始動できないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか
➡ P. 42
- ヒューズが切れていないか ➡ P. 60
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ➡ P. 59

これらに該当しない場合や異常がある場合は、Honda 販売店にご相談ください。

オーバーヒート（水温警告灯が点灯）

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温警告灯が点灯している
- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときは直ちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス

オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。

オーバーヒートの処置

1. メインスイッチを○（Off）にしてエンジンを止める。
 - ▶ ラジエーターカバーに異物等の付着がないか、確認します。異物等がある場合は取り除いてください。
 - ▶ メインスイッチが○（Off）の状態、エンジンが冷えるのを待ちます。

2. エンジンが冷えてから、リザーバータンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。▶ P. 74, ▶ P. 75

3. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合

エンジンをかけず、Honda 販売店にご相談ください。

4. 水温警告灯を確認しながら走行する。
 - ▶ 異常がなければ走行可能ですが、異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯

走行中またはアイドリング中に点灯した場合は何らかの異常が考えられます。高速走行を避け、直ちに Honda 販売店にご相談ください。

Honda SMART Key 警告灯

Ⅰ Honda SMART Key 警告灯が 5 回点滅したとき

Honda SMART Key のボタン電池を交換してください。▶ P. 83


Ⅱ メインスイッチの位置がⅠ (On) の状態で Honda SMART Key 警告灯が点滅したとき

メインスイッチがⅠ (On) のとき車両と Honda SMART Key の通信が途切れると Honda SMART Key 警告灯が点滅します。

以下の場合、通信が途切れることがあります。

- 強い電波やノイズの影響
- 走行中の Honda SMART Key の紛失

但しメインスイッチが施錠されるまでは操作に影響はありません。

Honda SMART Key 警告灯が点滅中にメインスイッチの位置を SEAT FUEL、○ (Off) または  (Lock) にすると、メインスイッチ照明と Honda SMART Key 警告灯が約 20 秒点滅します。その後自動的に消灯し、メインスイッチが施錠されます。

▶ この機能の最初と最後を方向指示器の点滅でお知らせします。

メインスイッチを 2 秒以上押し続けることでもこの点滅を解除できます。点滅を解除するとメインスイッチは施錠されます。

Honda SMART Key がない場合エマージェンシーキーと ID タグを使用し、メインスイッチを解錠することができます。▶ P. 91

緊急時のシートロックの解除

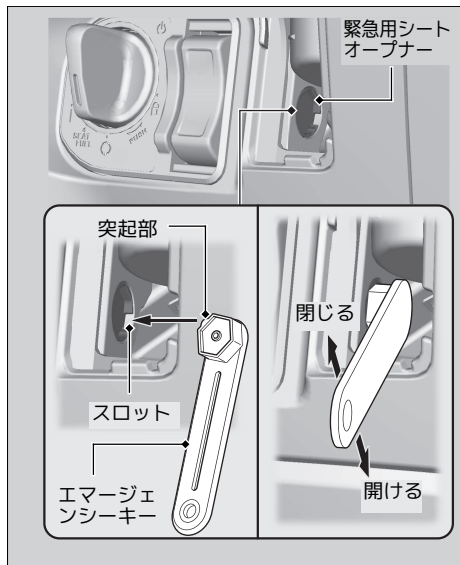
エマージェンシーキーを使ってシートロックを解除できます。

Ⅰシートの開けかた

1. メンテナンスリッドを取り外す。▶P. 69
2. エマージェンシーキーの突起部を緊急用シートオープナーのスロットに合わせ、エマージェンシーキーを反時計回りに回す。
3. シートを開け、エマージェンシーキーを時計回りに回す。

Ⅱシートの閉じかた

1. シートをおろし、シート後部を上から押してロックします。シートを軽く持ち上げて、ロックがかかっていることを確認してください。シートがロックされない場合は、エマージェンシーキーを時計回りに回してロックします。
2. 緊急用シートオープナーからエマージェンシーキーを抜きメンテナンスリッドを取り付ける。

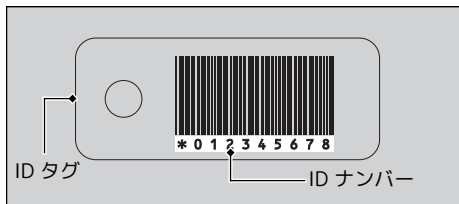
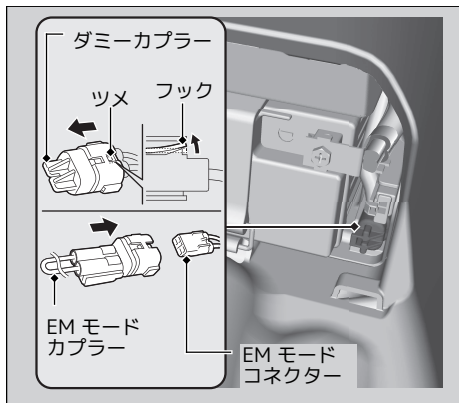


緊急時のメインスイッチの解錠

エマージェンシーキーと ID タグを使ってメインスイッチを解錠できます。


準備

1. エマージェンシーキーでシートを開ける。
▶ P. 90
2. バッテリーカバーを取り外す。▶ P. 68
3. EM モードコネクタを引き出す。
4. フックを持ち上げながら EM モードコネクタのツメを外し、青いダミーカプラーを取り外す。
5. ID タグの ID ナンバーを確認する。
6. 携帯工具の中にある EM モードカプラーを EM モードコネクタに繋ぐ。



こんなときは

II ID ナンバーの入力

メインスイッチが SEAT FUEL、○ (Off)、または  (Lock) の位置のとき ID タグの ID ナンバーを左から順にメインスイッチを押すことによって入力します。

ID ナンバーはメインスイッチを押した数によって認証されます。

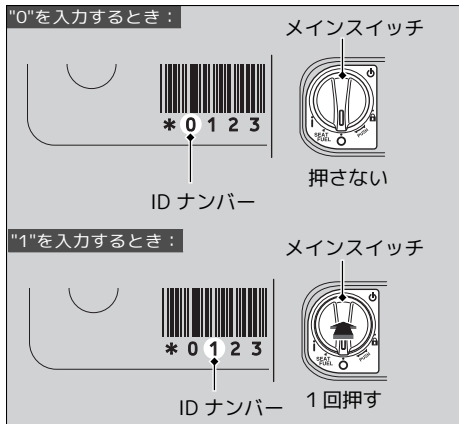
メインスイッチ照明が点灯してから5秒以内にメインスイッチを必要な回数押してください。

5秒経過すると、メインスイッチ照明が消灯し入力したナンバーが決定されます。再び点灯したら、次の桁のナンバーを入力してください。

- ▶ メインスイッチ照明が青色に点灯しない場合、バッテリーが弱っているおそれがあります。Honda 販売店にご相談ください。

入力例

- "0"を入力するには、メインスイッチ照明が点灯中に、メインスイッチを押さずに5秒間待つ。
- "1"を入力するには、メインスイッチ照明が点灯してから5秒以内に、メインスイッチを1回押す。



ID ナンバー入力が成功した場合

最後の ID ナンバーの入力が終了すると EM モードカプラーを取り外すまで、メインスイッチ照明と Honda SMART Key 警告灯が 2 秒ごとに点滅します。

EM モードカプラーを取り外し、青いダミーカプラーに戻してください。

メインスイッチが解錠されます。

外した部品を逆の手順で取り付け、メインスイッチを 6 分以内に **I** (On) にしてください。

エンジンの始動が可能になります。

メインスイッチの施錠は SEAT FUEL、**O** (Off)、または **I** (Lock) の位置にしてメインスイッチを 2 秒間押してください。

また、ID ナンバー入力が成功した後、メインスイッチが SEAT FUEL、**O** (Off)、または **I** (Lock) の位置で 6 分経過すると自動的に施錠されます。

メインスイッチが施錠されるとメインスイッチ照明が消灯します。

再びメインスイッチを解錠するには、緊急時のメインスイッチの解錠をやり直してください。

緊急時のメインスイッチの解錠

ID ナンバー入力に失敗した場合

最後の ID ナンバーの入力が終了すると EM モードカプラーを取り外すまで、メインスイッチ照明と Honda SMART Key 警告灯が 1 秒ごとに点滅します。

メインスイッチは解錠されません。

EM モードコネクタから EM モードカプラーを取り外し、再接続して緊急時のメインスイッチの解錠をやり直してください。▶P. 91

ID ナンバー入力をキャンセルする場合

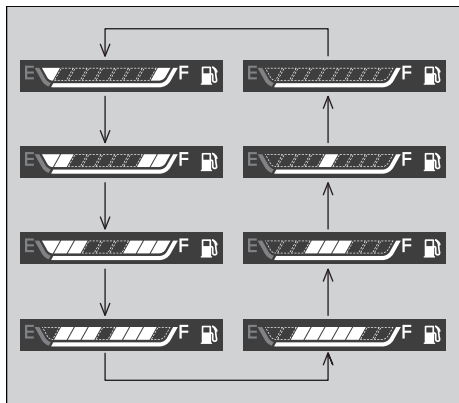
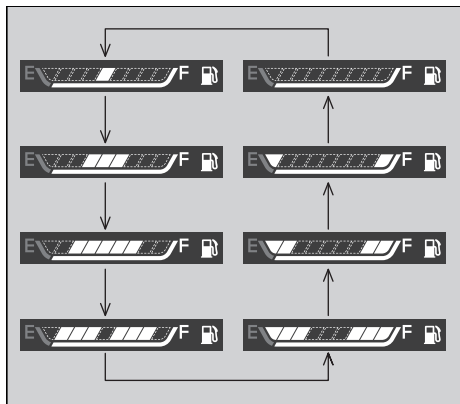
EM モードコネクタから EM モードカプラーを取り外してください。

ID 入力中に間違えた場合は EM モードコネクタから EM モードカプラーを取り外し、再接続して ID ナンバーを最初から入力してください。

- 取り外した EM モードカプラーは常に携帯工具の中に保管してください。

燃料計の故障表示

燃料計のマークが図のように点灯、消灯をくりかえしたときは Honda 販売店にご相談ください。



こんなときは

アイドリングストップ・システムが正しく作動しない

次の点を確認してください。該当しない場合や処置をしても症状が改善されない場合は、お買い上げの Honda 販売店へご相談ください。

アイドリングストップ表示灯が点灯しない

■アイドリングストップモード切り換えスイッチがIDLINGになっている

- アイドリングストップモード切り換えスイッチをIDLING STOP にしてください。

■エンジンが冷えている

- エンジンが冷えている状態ではアイドリングストップ・システムは作動しません。エンジンの暖機を行ってください。

■エンジン始動後、走行していない

- エンジンを始動したあと、走行（車速 10 km/h 以上）しないとアイドリングストップ・システムは作動しません。一度、走行してください。

■PGM-FI 警告灯が点灯している

- PGM-FI 警告灯が点灯している状態では、エンジン保護のためアイドリングストップ（エンジンが停止）しません。お買い上げの Honda 販売店へご相談ください。

■バッテリーの電圧が低下している

- バッテリーの電圧が低下するとアイドリングストップ・システムが作動しないことがあります。しばらく走行して、一度エンジンを停止し、スタータースイッチでエンジンを再始動してください。頻繁に発生する場合は、Honda 販売店へご相談ください。

アイドリングストップ表示灯が点灯しているがアイドリングストップしない

■ 停車していない

- 車速が 0 km/h にならないとアイドリングストップ・システムは作動しません。完全に停車してください。

■ スロットルグリップを回している

- スロットルグリップを回しているとアイドリングストップ・システムは作動しません。スロットルグリップを全部戻してください。

スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない

■ サイドスタンドが格納されていない

- アイドリングストップ中にサイドスタンドの操作を行うと、アイドリングストップ表示灯が点滅から消灯または点灯に切り換わりアイドリングストップ・システムは解除されます。スタータースイッチでエンジンを再始動してください。▶ P. 42

■ アイドリングストップモード切り換えスイッチが IDLING になっている

- アイドリングストップ中に、アイドリングストップモード切り換えスイッチを IDLING にする操作を行うと、アイドリングストップ・システムは解除されます。スタータースイッチでエンジンを再始動してください。▶ P. 42

アイドリングストップ表示灯 は点滅しているがスロットル グリップを回してもエンジン が始動しない

- スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない場合はバッテリーコード端子の緩み、バッテリーあがりと考えられます。このようなときは、バッテリーコード端子に緩みがないか点検してください。▶ P. 67
バッテリーがあがっている場合は、Honda 販売店にご相談ください。

Honda SMART Key システムが正しく作動しない

Honda SMART Key システムが正しく作動しない場合は次の点を確認してください。

- Honda SMART Key システムが作動停止状態になっている

Honda SMART Key の ON / OFF スイッチを軽く押し LED が赤色のときは作動可能状態に切り換えてください。▶ P. 33

Honda SMART Key の LED が点灯しない場合は Honda SMART Key の電池を交換してください。

- Honda SMART Key システムに通信障害がある

Honda SMART Key システムは、微弱な電波を使用しています。よって以下の使用環境では正常に作動しないことがあります。

- ▶ 近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
- ▶ Honda SMART Key と一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ▶ Honda SMART Key が金属製のものに接したり、覆われているとき

- 登録された Honda SMART Key を使用していない
登録された Honda SMART Key を使用しないと、Honda SMART Key システムは作動しません。登録された Honda SMART Key を使用してください。
- 壊れた Honda SMART Key を使用している
Honda SMART Key が壊れているとシステムを作動できません。
エマージェンシーキーと ID タグを持って Honda 販売店へご相談ください。

- 車両のバッテリーが弱っている、もしくはあがっている
バッテリーとバッテリーターミナルを点検してください。バッテリーが弱っている、またはあがっている場合は Honda 販売店にご相談ください。

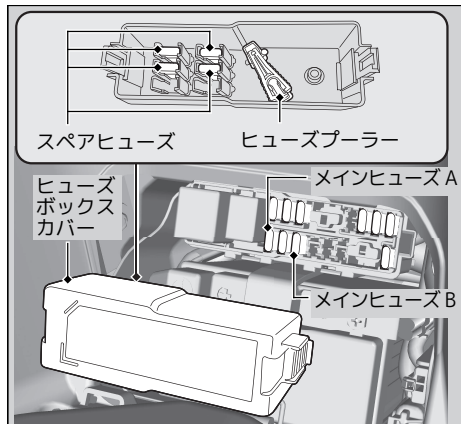
他の原因で Honda SMART Key が作動しない場合は Honda 販売店にご相談ください。

電装部品のトラブル

ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。▶P. 60

ヒューズ切れ

■ヒューズボックス内のヒューズ



1. バッテリーカバーを取り外す。▶P. 68
2. ヒューズボックスカバーを取り外す。
3. メインヒューズ、その他のヒューズが切れている場合はヒューズプーラーを使って、同じ容量のスペアヒューズと交換する。
▶ スペアヒューズ、ヒューズプーラーはヒューズボックスカバーの裏側にあります。
4. ヒューズボックスカバーを取り付ける。
5. バッテリーカバーを取り付ける。

アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めに Honda 販売店で点検し、スペアのヒューズを補充してください。

エンジンが一時的に不調になる

燃料ポンプのフィルターがつまると、走行中スロットルグリップを戻したような減速が散発的に発生します。

この症状が発生しても再走行は可能です。

ガソリンがあるにもかかわらず、走行中一時的なエンジン不調が発生した場合は、直ちにHonda 販売店にご相談ください。

インフォメーション

キーの取り扱い	P. 104
装備に関する補足情報	P. 107
車のお手入れ	P. 108
保管のしかた	P. 110
廃棄するとき	P. 111
フレームおよびエンジンナンバー	P. 113
触媒装置について	P. 114

キーの取り扱い

Honda SMART Key

Honda SMART Key を携帯していることで、以下の操作が可能になります。

- ・メインスイッチの施錠・解錠
- ・シートロックの解除
- ・燃料タンクリッドを開く
- ・ハンドルロックのロック・解除

ID タグには、Honda SMART Key の ID ナンバーが記載されています。

ID ナンバーを入力することでメインスイッチを解錠することもできます。

ID タグとエマージェンシーキーの両方を常に携帯してください。但し、同時紛失しないよう、Honda SMART Key とは別に携帯してください。

万が一の場合に備えて、ID ナンバーを紙などに控えて車両以外の場所に大切に保管してください。

Honda SMART Key には電子回路が内蔵されています。電子回路が故障すると Honda SMART Key は作動しません。

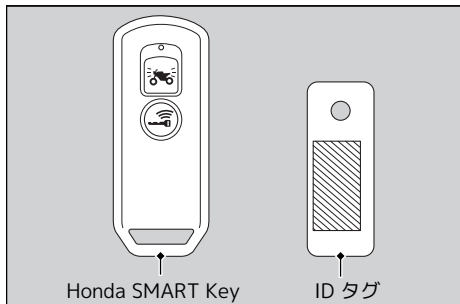
- Honda SMART Key を無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしない
- 直射日光のあたるところ、高温、多湿になる場所には置かない
- 削ったり、穴を開けたりしない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない
- テレビ、オーディオ、パソコンなどの電化製品、または低周波治療器などの医療用電子機器の近くに置かない
- Honda SMART Key を濡らさない
濡れた場合はすぐにやわらかい布で拭き乾かしてください。
- 洗車するときは、Honda SMART Key を車から遠ざける。
- 火であぶったりしない
- 超音波洗浄器などで洗浄しない

- Honda SMART Key に油脂類などを付着させない
ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、本体が変形したり、ひび割れの原因となるおそれがあります。
- 分解をしない
電池交換のとき以外は、Honda SMART Key を分解しないでください。
Honda SMART Key のカバー以外の部品は、分解しないでください。
- Honda SMART Key を紛失しない
Honda SMART Key を紛失した場合、Honda SMART Key システムの再登録が必要になります。登録はエマージェンシーキーと ID タグを持って Honda 販売店へご相談ください。

電池の寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年です。

携帯電話などの無線通信機器をトランクに入れないでください。機器の電波によって Honda SMART Key システムが遮断されることがあります。

予備の Honda SMART Key の作成については、Honda 販売店へご相談ください。

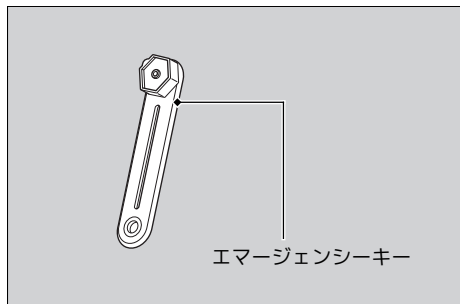


エマージェンシーキー

エマージェンシーキーは緊急時に使用します。

- シートのロックを解除する。▶ P. 90
- メインスイッチを解錠する。▶ P. 91

エマージェンシーキーをトランクに入れないでください。



装備に関する補足情報

■ メインスイッチ

エンジンをかけずにメインスイッチを「(On)」の状態にしておくとバッテリーあがりの原因となります。

走行中はメインスイッチを操作しないでください。

■ オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

■ トリップメーター

トリップメーターは、999.9 km を超えると 0.0 km に戻ります。

■ 書類入れ

取扱説明書、登録書類、保険証、メンテナンスノートなどは書類入れに入れ、シートの裏側に収納してください。

■ ヘッドライト、ストップ/テールランプ、フロントウィンカー、リアウィンカー、ポジションランプ、ライセンスプレートライト

LED 使用のライトは一体式です。

もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、Honda 販売店にご相談ください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジか柔らかいタオルを使って洗う。
 - ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させた後、可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
 - ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
 - ▶ ヘッドライトレンズやフェアリング、その他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- マフラーに水を入れない
 - ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- シートの下方から水を強くかけない
 - ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- エアクリナー周辺に水を強くかけない
 - ▶ エアクリナー内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- ブレーキを濡れたままにしない
 - ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。

- ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
 - ▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
 - ▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディの目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
 - ▶ つや消し塗装が使われている場合は、塗装面にワックスやケミカル類を使用すると、つや消し感が無くなったり、色むらが生じるおそれがありますので、使用しないでください。

- ヘッドライトがくもったとき
 - ▶ ヘッドライトは雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的にくもることがあります。また、ヘッドライト内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。これは、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。また、ヘッドライトの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ヘッドライト内に水がたまっている場合や大粒の水滴がついている場合は Honda 販売店にご相談ください。

アルミ部品

アルミ部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- アルミホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- スクリーンに貼付されているコーションラベルをはがさない
- メーター、スクリーン、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする

エキゾーストパイプ、マフラー

エキゾーストパイプ、マフラーが塗装されている場合は、ステンレス用台所洗剤や市販のコンパウンドを使用しないでください。塗装面の清掃には中性洗剤を使用してください。もし、塗装処理されているかわからない場合は、Honda 販売店にご相談ください。

保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックスがけを行う（つや消し塗装面を除く）
- 雨上がりにはボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため、車から取り外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存する
 - ▶ もしバッテリーを車に積んだままにする場合は、⊖側ターミナルを外してください。

長期保管後にお車に乗る際は、保管期間を考慮した上で、各部の点検を実施してください。

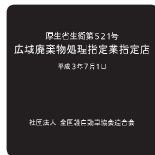
廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイル、トランスミッションオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、Honda 販売店にご相談ください。

また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。



二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、シートを開けると確認できます。▶ P. 50

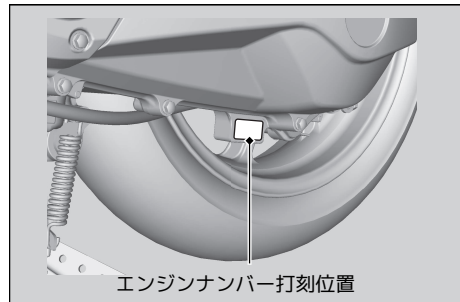
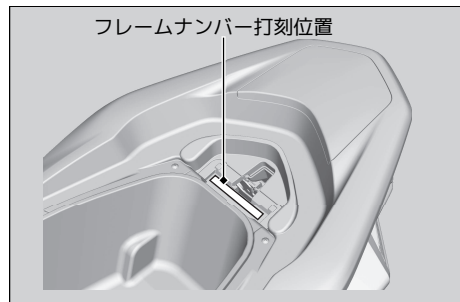


お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等は、Hondaウェブサイト「廃棄段階のリサイクル 二輪車リサイクル自主取り組み」にてご確認いただけます。
<http://www.honda.co.jp/motor-recycle/>

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。

フレームナンバーは、フレーム後方に打刻されています。シートを開けると確認できます。▶ P. 50



触媒装置について

この車は平成 28 年排出ガス規制適合車です。この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素（CO）、炭化水素（HC）、窒素酸化物（NOx）の 3 つの有害物質の排出量を低減します。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にメインスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけでなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛ガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、直ちに Honda 販売店で点検を受ける

スペック

■ 主要諸元

型式	2BJ-JF81
全長	1,925 mm
全幅	745 mm
全高	1,105 mm
ホイールベース	1,315 mm
最低地上高	137 mm
キャスト角	27° 00'
トレール長	85 mm
車両重量	130 kg
乗車定員	2名
最小回転半径	1.9 m

排気量	124 cm ³
ボア×ストローク	52.4 x 57.9 mm
圧縮比	11.0
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃料タンク容量	8.0 ℓ
バッテリー容量	GTZ8V 12 V-7 Ah (10 HR)
変速比	無段変速 2.650 ~ 0.810 機関から変速機 1.000
減速比	1次 3.312 2次 3.214

スペック

■ サービスデータ

左ブレーキレバーの遊び		10 - 20 mm
タイヤサイズ	前輪	100/80-14M/C 48P
	後輪	120/70-14M/C 55P
タイヤタイプ		バイアス、チューブレス
指定タイヤ	前輪	MICHELIN CITY Grip
	後輪	MICHELIN CITY Grip
タイヤ空気圧 (1名乗車時)	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
	後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)
タイヤ空気圧 (2名乗車時)	前輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
	後輪	225 kPa (2.25 kgf/cm ²)
点火プラグ	標準	MR8K-9(NGK)
プラグギャップ		0.8 - 0.9 mm
アイドル回転数		1,700 ± 100 rpm

推奨エンジンオイル	Honda 純正 ウルトラ E1 JASO T 903 規格：MB SAE 規格：10W-30 API 分類：SL 級	
エンジンオイル容量	オイル交換時	0.8 ℓ
	全容量	0.9 ℓ
エンジンオイル交換時期	初回：1,000 km または 1 ヶ月 以後：6,000 km または 1 年ごと Honda 純正 ウルトラ E1	
推奨トランスミッションオイル	JASO T 903 規格：MB SAE 規格：10W-30 API 分類：SL 級	
トランスミッションオイル容量	オイル交換時	0.12 ℓ
	全容量	0.14 ℓ
トランスミッションオイル交換時期	初回：5 年 以後：4 年ごと	
指定ブレーキ液	Honda 純正ブレーキフルード DOT 3 または DOT4	
冷却水容量	全容量	0.51 ℓ
指定ラジエーター液	Honda 純正ウルトララジエーター液	
エアクリーナーエレメント	交換：20,000 km ごと	
交換時期		

■ バルブ（電球）

ヘッドライト	LED
ストップ/テールランプ	LED
フロントウィンカー	LED
リアウィンカー	LED
ポジションランプ	LED
ライセンスプレートライト	LED

■ ヒューズ

メインヒューズ A	25 A
メインヒューズ B	15 A
その他のヒューズ	7.5 A、2 A

H	
Honda SMART Key	104
Honda SMART Key ON / OFF スイッチ	27
Honda SMART Key 警告灯	25
Honda SMART Key システム	29
O	
OIL CHANGE	19
P	
PGM-FI 警告灯	24
ア	
アイドリングストップ表示灯	24
アイドリングストップモード切り換え スイッチ	26
アイドリングストップ・システム	39
アクセサリ	9
アクセサリソケット	49
アンサーバックスイッチ	27
安全運転のために	4
安全上守っていただきたいこと	3
安全なライディング	2
イ	
インフォメーション	103
ウ	
運転するときの注意	5
エ	
エアクリナー	64
エンジン	
エンジンオイル	61, 70
エンジンオイルレベルゲージ	70
エンジンオーバーヒート	87
エンジン始動	42
エンジンナンバー	113
エンジンオイル交換時期表示	19
エンジンがかからないとき	86
オ	
オーバーヒート	87
お手入れ	108

オドメーター 18, 107

カ

改造 9

各部の名称 14

ガソリン 8

カラーラベル 58

キ

基本操作の流れ 12

ク

グローブボックス 11, 54

ケ

警告灯

PGM-FI 警告灯 24, 88

Honda SMART Key 警告灯 25

水温警告灯 24, 87

携帯工具 53

コ

交換部品 58

こんなときは 85

コンビブレーキ 5

シ

シート 50

触媒装置 114

書類入れ 53, 107

ス

水温警告灯 24, 87

スイッチ

アイドリングストップモード切り換え	
スイッチ	26
ウィンカー（方向指示器）スイッチ	26
スタータースイッチ	26
燃料タンクリッド / シートオープナー	
スイッチ	47, 50
ハザード（非常駐車灯）スイッチ	26
ヘッドライト（前照灯）上下切り換え	
スイッチ	26
ホーンスイッチ	26
メインスイッチ	27
スタートの手順	45
スピードメーター	17
スペック	115
スロットル	82

セ

積載について	10
洗車	108

ソ

その他装備の使いかた	50
その他の故障表示	95

タ

タイヤ	64
正しい運転の操作	45

チ

駐車	6
----------	---

テ

点検

定期点検	57
日常点検	56
電装部品のトラブル	101

ト

時計	17
トランク	11, 50
トランスミッションオイル	62, 72
トリップメーター	18, 107

ナ	
慣らし運転.....	5

ネ **燃料**

使用燃料	47
燃料計の故障表示.....	95
燃料残量	17
燃料タンクリッド / シートオープナー スイッチ	47, 50
燃料補給	47
燃料計	17

ハ

廃棄.....	111
バッテリー	59, 67
バッテリーカバー.....	68
ハンドルロック.....	28

ヒ

ヒューズ.....	60, 101
表示灯	

アイドリングストップ表示灯.....	24
ハイビームパイロットランプ表示灯.....	24
方向指示器表示灯.....	25

フ

服装	4
フリーザードレーン	81
ブレーキ	
後輪ブレーキレバーの遊び.....	78
使いかた	46
ブレーキ液	63, 76
ブレーキシュー.....	80
ブレーキパッド.....	77
フレームナンバー	113

ヘ

平均燃費	18
ヘルメット	
ヘルメットホルダー.....	52
ヘルメットホルダーワイヤー.....	52

ホ	
方向指示器表示灯.....	25
保管	110
メ	
メインスイッチ	27, 107
メーター	16
メンテナンス	55
メンテナンスリッド	69
リ	
リサイクルマーク	112
レ	
冷却水.....	63, 74

お問い合わせ

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受けいたします。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

オーハローバイク
フリーダイヤル **0120-086819**

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ①車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ②車種名、タイプ名、走行距離
- ③ご購入年月日
- ④販売店名



30K96A00
00X30-K96-A000

XX XXXX.2018.XX.J
© 2018 本田技研工業株式会社
(車両製造国：ベトナム)
PRINTED IN VIETNAM